

# 医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	「放射線治療装置 Cyber Knife M6」を使った肝臓定位放射線治療において Gold Marker を用いた回転方向の補正実施率向上のための研究
研究責任者	聖隷浜松病院 放射線部 加藤剛
研究実施体制	【研究分担者】 聖隷浜松病院 腫瘍放射線科部長 野末政志 聖隷浜松病院 放射線部 村木勇太 聖隷浜松病院 放射線部 齋藤龍典
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 1年間
対象者	聖隷浜松病院腫瘍放射線科において Cyber Knife を使った肝臓定位放射線治療(Gold Marker3 個留置)を実施する患者を対象とする。
研究の意義・目的	Cyber Knife を使った肝臓定位放射線治療では肝腫瘍近傍に留置した金マーカー(Gold Marker)をX線で撮影することにより、肝腫瘍の位置や呼吸による動きを装置が認識することで、肝腫瘍の位置を補正し動きを追いかけながら治療をしている。 回転方向の補正を実施するために、体内の状態を治療計画撮影時に近づけるため力が入らないような工夫や、治療前の食事制限、小さな呼吸や身体にベルトを巻くことによる大きな呼吸の抑制など、様々な準備を検討し組み合わせて実施している。 回転方向の補正を実施するために行っている準備の組み合わせや、症例(腫瘍の位置、腫瘍の大きさなど)の関係性などを前向きに調査、研究することで、肝臓定位放射線治療における肝腫瘍の位置や呼吸による動きの回転方向の補正実施率を向上し、治療計画時と肝腫瘍の位置や動きを近づけることができ、より高精度な放射線治療を行えることが期待される。
研究の方法	Cyber Knife を使って肝臓定位放射線治療を実施している患者に対して、回転方向の補正を実施するための肝腫瘍の位置や動きを抑制するために通常行っている準備(体内の状態を治療計画撮影時に近づけるため力が入らないような工夫や、治療前の食事制限、小さな呼吸や身体にベルトを巻くことによる大きな呼吸の抑制など)の実施した内容や、症例(腫瘍の位置、大きさなど)と回転方向の補正の可否などを毎回の治療時に記録用紙を用いて記録し相関を研究する。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。

資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 放射線部 (氏名) 加藤剛 TEL:053-474-2222(代表) 放射線部 9:00~17:00 平日